



56号 令和6年8月7日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



認めてもらっているという安心感

そもそも、目の前の子のためと思い・・・，
そこから、時として始まる「叱ること」。
しかし、叱る側の基準に達していないと、それが目に付き、また叱る。
叱る。叱る。叱る・・・。
いつの間にか、ほめる言葉をかけなくなったその先に待ち受けていることは・・・？

【事例1】子供時代を振り返ったAさんの感想

「私には兄がいて、何でもできる兄はいつも親にほめられていました。それに引き換え、私は何をやっても中途半端。親にほめられることもありませんでした。いつしか、私は親を困らせて気を引こうと考えるようになってしまったのです。」

【事例2】ある白バイ隊員曰く

「暴走する奴らはさみしいんだよ。だから警官が追い掛けると、相手にされていると錯覚して、さらに行動がエスカレートするんだ。」

【事例3】凶悪事件を起こした加害少年が取調室で調査官に漏らした言葉

「私はこれまでに誰かからこんなに真剣に私の話を聞いてもらったことはありませんでした。」

(事例1～3は、大谷徹獎著 『静思(じょうし)のすすめ』文藝春秋より)

子育てにマニュアルはありませんね。だから、むずかしいです。
どんな大人も、はじめは目の前の子のためと思って働きかけているはずなのですが・・・。
それがいつしか、反対方向に向かわないようにするために、
大人も自分自身の子育てを時として静かに振り返る必要があるでしょう。
大切なのは、「認めてもらっているという安心感」を子供にどう伝えるのかということなのでしょ